

総合型選抜のポイント（自己表現型・アスリート型）

大阪体育大学 スポーツ科学部・教育学部

掲載している内容は、過去に実施された試験について、受験生からの聞き取り調査をもとにまとめたものです。
ポイントは、授業を担当する講師が指導上、重視する点を簡潔にまとめたものです。入試内容は、変更になる可能性があります。本年度の入試については、入試要項等でご確認ください。

◆出願書類の書式とポイント

●書式

出願方式・志望学部によって書式が異なる。ボールペン（黒）で記入。

・自己表現型 スポーツ科学部

自己表現型
加配試験なし（自己表現型）

大阪体育大学 志願理由書

学部
教育学部

学科
教育・スポーツマネジメント学科

氏名
姓 名

〒〒〒

1. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。

+

+

+

2. 将来の目標、大学卒業後の見込み
志望する理由と関連して記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

3. 志望する学部・学科の理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

4. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

5. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

自己表現型
加配試験あり（自己表現型）

大阪体育大学 志願理由書

学部
教育学部

学科
教育・スポーツマネジメント学科

氏名
姓 名

〒〒〒

1. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。

+

+

+

2. 将来の目標、大学卒業後の見込み
志望する理由と関連して記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

3. 志望する学部・学科の理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

4. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

5. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

・アスリート型 スポーツ科学部

自己表現型
加配試験あり（自己表現型）

大阪体育大学 志願理由書

学部
教育学部

学科
教育・スポーツマネジメント学科

氏名
姓 名

〒〒〒

1. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。

+

+

+

2. 将来の目標、大学卒業後の見込み
志望する理由と関連して記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

3. 志望する学部・学科の理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

4. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

5. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

自己表現型
加配試験なし（自己表現型）

大阪体育大学 志願理由書

学部
教育学部

学科
教育・スポーツマネジメント学科

氏名
姓 名

〒〒〒

1. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。

+

+

+

2. 将来の目標、大学卒業後の見込み
志望する理由と関連して記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

3. 志望する学部・学科の理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

4. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

5. 志望する理由
志望する理由を簡潔に志望理由欄に記入してください。また、その理由を記入してください。

+

+

+

・自己表現型 教育学部

The form consists of four pages. The first page is the title page '大坂体育大学 志願理由書' (Osaka University of Physical Education Application Form). The following three pages contain numbered questions in Japanese regarding reasons for applying, future goals, and academic interests, each followed by a large grid for writing answers.

●主な質問項目

- ・本学を志願する理由
- ・将来の目標、大学卒業後の計画
- ・入学後の学修・活動計画（学修・競技活動やその他の活動）
- ・志望学科に対する関心/理解
- ・高校時代の取り組み

など

●ポイント

この内容をもとにして、2分間の自己PRを行い、その上でさらに、10分間の面接が行われる。1つ1つの項目において、深掘されても明確に具体的に答えられるように、書類作成の段階において、十分な資料集めを行い、論理構築をするといった準備が必要になる。

◆面接試験の形式とポイント

●試験形式：グループ面接

【スポーツ科学部】

- ・志望理由（と学修計画の両方を聞かれることも）
- ・将来のために大学で何を学びたいのか
- ・受けた講義とその理由
- ・部活を通して得たもの
- ・部活動以外で主体性をもって個人で取り組んだことと集団で取り組んだこと
- ・スポーツイベントの企画で大事だと思うこと
- ・現代スポーツの課題
- ・トレーナーになるために専門的知識以外で必要なこと

【教育学部】

- ・理想の教師像
- ・教師になった際、「いじめ」にどう取り組むのか
- ・体育学部でも教員免許は取得できるが、なぜ教育学部なのか
- ・新聞/ニュースなどで印象に残っていること
- ・教育現場で実際に生徒からされる質問を想定した質問

●ポイント

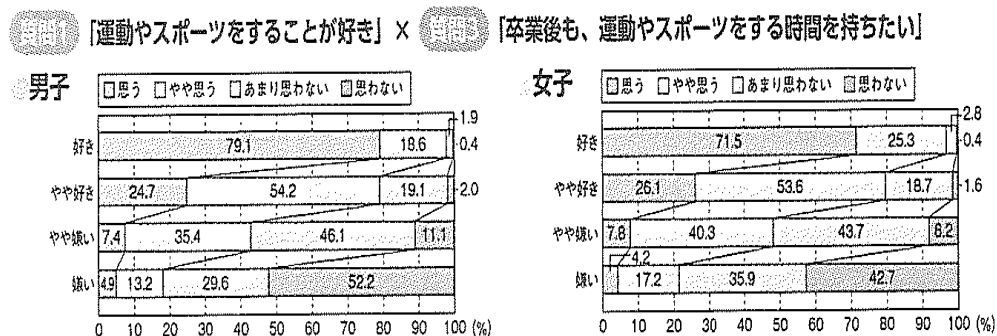
ホームページ、入試要項、シラバスなどを参照し、スポーツ科学科・教育学科の詳しい内容について答えられるようにしておくこと。面接官の質問を落ち着いて聞き、的外れな回答にならないように注意すること。暗記した回答文を棒読みするのではなく、自分の考えが正確に伝わるように大きな声でゆっくり話すこと。

◆小論文の出題とポイント スポーツ科学部

【2024 年度出題】試験時間 60 分。 字数：600 字以内 出題形式：テーマ型

●出題内容 ※聞き取り情報

生涯にわたって運動やスポーツに親しむことは重要なことである。グラフは、全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（スポーツ庁, 2022）に示された「運動やスポーツをすることが好き（質問 1）」と「（中学校を）卒業後も、運動やスポーツをする時間を持ちたい（質問 3）」の男女それぞれのクロス集計結果である。グラフから読み取れることを説明したうえで、中学校における「運動やスポーツの取り組みについて」600 字以内で述べなさい。



●ポイント

「具体例を挙げながら」という一節に注意したい。注意すべき点は2つある。まず具体例を示す必要があるということは、「問い」に対する「直接の答え」は抽象的なものにならざるを得ないということである。その「抽象的な答え」を具体例で説明するわけである。当然具体例は「一般的な事象」、つまりあらゆる人が知っているこ

とであるほうがよい。こういう問題の場合起こりがちな失敗は「具体例に引きずられて感情的になること」「具体例を書いただけで満足すること」である。具体例をもう一度抽象化することは、具体例を挙げることよりももっと大切なことである。

◆小論文の出題とポイント 教育学部

【2024 年度出題】試験時間 60 分。 字数：設問①50 字以内 設問②700 字以内 出題形式：文章読み取り型

●課題文

人間は生物として進化し、社会をつくってきました。言い方を変えれば、こういう社会をつくったからこそ、長い時間をかけて、生物学的な性質を変えて①文化的な力をもつようになったということでもあります。それが、共同保育や共食、音楽といった、人間にしかないコミュニケーションによって発達した共感力であり、他者を思いやる気持ちです。しかし今、生物としての人間に備わっているはずの力を失おうとしています。それは、インターネットやスマホなどの登場によって、コミュニケーションの方法が変わったからです。

未来の社会を考えたとき、ICT 注 1 AI 注 2 はさらに発展するでしょう。スマホ注 3 を使ったビジネス、あるいは制度上のしくみもどんどん登場しています。スマホがあればタクシーもすぐに呼べるし、現金なしで決済もできる。いずれ学校に行かずに自分の好きな時間帯に授業や試験が受けられる取り組みも始まるでしょう。インターネットから離れられなくなるのは仕方ないことだと思います。生活自体を昔に戻すことができないのであれば、現実世界に合わせていくしかありません。

発展する科学技術との共存は可能だと思います。ただし、現代文明と付き合うには、人間が「生物として」進化してきたということを今一度自覚して、生物としての人間の幸福な在り方、生き方を考えなくてははいけません。ほかの生物に倣うのではなく、「人間」の中にある生物学的な部分を見つめるのです。その生物学的な部分がないがしろにせず、大事にするためにはどのような仕組みを社会の中につくったらいいいのかをぼくたちは考える必要があります。(中略)

ぼくたちは、インターネットでつながった社会も言葉も、捨てることができません。でも、ネットの中だけでつながっているのは危険です。インターネットは、人間を情報化する装置であって身体でつながることはできません。相手はなりすましているかもしれないし、もしかしたら存在すらしていないかもしれない。嫌になったらすぐに消せる存在でもあるし、消される存在でもあります。

情報交換をするためのツールとして電話やメール、インターネットが登場したといっても、ひと昔前までは最初に人間の五感がありました。ところが、今は生まれたときからインターネットのフィクションの社会があります。まずはインターネットを通して世界を知り、次に生の経験をする。かつてとは順番が逆です。そして、先に存在するフィクションとしての世界は、自分の好きな情報でつくられた世界です。それは本来、他者と共有できるものではないのに、デジタル世代の子どもたちは、その構築された世界の中で見聞きする情報を互いに交換している。自分で見た世界の情報を交換していた時代の人間とは違います。

フィクションの世界での経験だけを積み重ねていると、繰り返しも再現もできないリアルな世界とすり合わせ

ることができなくなります。リアルな世界では、失敗しても前に戻れないし、傷つきもする。なぜ、フィクションの世界のように自分の思い通りにいかないのか悩みます。そして、わけがわからなくなって暴力を振るったり、泣き叫んだり、閉じこもったりしてしまいます。

②こんなはずではなかったと思う前に、生の世界を直感力で切り抜ける能力を鍛えないといけません。

(注1)ICT:Information and Communication Technology の略称 情報通信技術

(注2)AI:Artificial Intelligence の略称 人工知能

(注3)スマホ:スマートフォンの略称

(出典:山極寿一 「スマホを捨てたい子どもたち 野生に学ぶ 『未知の時代』 の生き方」 ポプラ新書、2020 年より抜粋 一部改変)

●出題内容 ※聞き取り情報

【問 1】

筆者が言う①「文化的な力」(本文下線部)とは何か。本文中の言葉を抜き出し、50 字以上 60 字以内で答えなさい。

【問 2】

②「こんなはずではなかったと思う前に、生の世界を直感力で切り抜ける能力を鍛えないといけません。」(本文下線部) とあるが、そのためにはどのようなことが必要だと筆者は主張しているのか、本文中の言葉を用い、あなたの生活上の体験から具体的な例を挙げて補足しながら 700 字以内で述べなさい。

●ポイント

下線部に対する記述問題は、現代文読解における「本文中の記述を抜き書きする問題」そのものである。しかし、この「抜き書き」問題の正解が出せなければ、小論文全体の正解も出ないようになっている。傍線部は指示語や接続語、あるいは記述の繰り返しのによって前後の表現と結びついており、そのようにしてつながる箇所に正解がある。この場合下線部は疑問形の文であるから、おそらく直後の箇所に正解はある。その記述を出発点として自分の考えをまとめていくとよい。

以上